「ならなぎ　よりみちクラブ」活動報告

報告者：　上森　節子

日時	2022年8月10日（水） 15時00分　～ 19時00分	天候	晴れ	コース名： 第32回よりみちクラブ	
案内団体又は催事名	平城宮跡をもっと知ろう！ ＝ツバメのねぐら入りも見学＝			人数	大人：26名

集　合：近鉄・西大寺駅中央改札口(外)　15：00
ガイド：　森様(ならなぎ会員)　(補助)玉尾ひとみ様(ならなぎ会員)
行　程：大和西大寺駅→奈文研→佐伯門跡→復元事業情報館→大極殿→大極殿院南門→朱雀門→いざない館
いざない館組と合流→館内見学→復元事業情報館のヨシ原(ツバメのねぐら入り見学)→西大寺駅

出席者…義田・上森・玉尾（洋）・嶋田・村上・寺尾・近野・澤井・田中(和)・福島・竹山・ 風間
中村（初）・森・伊与田・小田・山岡・木邨・辻・玉尾（ひ）・堀内 ・樋野・北川・奥山・
神田･入江

15：10　西大寺駅出発組は19人だったが、少し遅れた2人を義田代表にお願いし16名は安倍首相銃撃現の生々しい現場を横目で見ながら佐保川沿いを歩き奈良文化財研究所前を通り平城京跡へ。

15：15　佐伯門跡
この門の外には一条南大路と西一条大路という大きな道路が通っていた。宮城十二門の一つで早くは飛鳥板葺宮からあったとの説もある。西面の中門で佐伯氏の造営、佐伯氏は中大兄皇子の元で蘇我入鹿暗殺事件に佐伯子麻呂が活躍、代々朝廷警護にあたっていた。

15：20　復元事業情報館にてトイレと給水､大極殿の見学入館時間が16時までとのことで大極殿に向かう。

15：30　大極殿の見学　（ここで自転車できた1名と遅れてきた3名20名が揃う）
平城京は710年唐の長安をモデルに設計された。南北5キロ東西6キロ、都の中央北端に政治の中心となる平城宮が作られた。第一次大極殿は宮殿の中でも最も重要な建物。ここには即位の儀式や元日の朝賀に使われた天皇の玉座である高御座（たかみくら）が置かれていた。
復元に際しては、発掘調査のデータや奈良時代の建物など参考に多くの専門家が研究して平成13年から9年の歳月をかけて平城遷都1300年の平成22年に完成した。聖武天皇は恭仁京、難波、紫香楽宮と変遷を繰り返し平城京に戻って新たに大極殿を作った。それが第二次大極殿、今はこの大極殿や南の朝堂の土壇が残っている。これが明治の終わりに建築史家の関野貞が平城宮跡を発見するきっかけとなった。明治から大正にかけて地元の棚田嘉十郎達が保存運動に取り組み今日の礎を築いたのだそうだ。再現された第一次大極殿は基壇しかないのにここまでの再現はお見事だとしか言い様がない。
大極殿の高さは29メートル、幅44メートル、鴟尾、中央飾りは平安京絵巻を参考にし、重層の構造は法隆寺金堂を参考にした。組み物と軒は薬師寺の東塔にならったという。高欄の束の上に5 種の色玉の宝珠付き金具、柱は下から三分の一より上に徐々にすぼまる形式になっていて遠くから見るとまっすぐ見えるらしい｡又、かかっている扁額は長屋王の奥書から集字されたそうだ。

15：40　第一次大極殿院大極門(南門)
発掘調査で基壇と階段の大きさが判明、復元は文献資料や絵画資料などから古代の二重門は全て桁行５間以上であったことが判明、時代性、規模、伽藍上の位置などを鑑みて二重門、入母屋造で復元された。

15：50　朱雀門

奈良時代前期の建築なので、様式を同年代の薬師寺東塔を参考に復元された。各部材などは東大寺の転害門を参考にされた。

発掘調査で礎石は自然石であったことが判明、出土した瓦から、藤原宮にふかれた瓦を再利用されたことも分かった。この門の左右には高さ 6 メートルの築地塀がとりかこんでいた。

門の前では新羅や唐の外国使節の送迎を行ったり大勢の人々が集まって歌垣などイベントをおこなっていたらしい。

廻りに役所の建物が 4 棟たっていたという。

朱雀門は衛士によって守られていて宮の正門としてさぞや堂々と勇士を誇ってそびえていたのだろう。

。

16：20　いざない館到着　（6 人参加 26 名となる）

16：30　森チームと玉尾（ひ）チームの二組に分かれて見学。

平城宮全域の復元模型や平城宮に出仕していた役人の暮らしぶり、官位に応じた報酬やわりあてられた住居の広さ等、わかりやすく展示されている。今と変わらずかなりの格差社会であったことが想像できる。平城京に暮らす庶民の暮らしについても学ぶことができた。

往事の平城京に入り込んだような空間の中で、奈良時代の人々の笑い声や泣き言までもが聞えてくるようだ。当時の人々の生の声、木簡の展示も興味深い。

18：30　復元資料館のヨシ原、ツバメのねぐら入り見学

ツバメは年々増加傾向、なぜならヨシ原が減少したので、安全で広いヨシ原のある場所を求めてあつまってくるらしい。五條市あたりからも 1 時間かけて飛んでくる。ツバメは春に人のそばで子育てをし秋になると東南アジア方面に去り冬を越す、その移動距離は片道数千キロメートル。渡りの過酷さ天敵の存在で生き残って日本に戻ってくるのは 1 割だそうだ。無事に育ったヒナは昼間は巣の近くで餌をたくさん食べて渡りの力を蓄え、夜になるとヨシ原に集まり集団ねぐらをつくるのだそうで、夕方の空を黒いツバメの大群が舞飛び、少しずつ増えて仲間や家族を呼び集めているかのように低空を飛び回り舞い降りる様子は壮観であった。皆、ツバメを写真におさめるのに夢中になっていた。

所感等

暑いさなかの集合時間に、何人が集まるのかが不安だったが、20 人以上の出席で良かった。連日危険な暑さのアラートがでていたので給水タイムには気を遣ったが夕方から気温も下がり、誰も熱中症にもならず無事だったことでホッとした。又、ツバメのねぐら入りも初めて見た人も多く大好評だった様に思う。

特記事項

野鳥の会の人が勧誘に来ていた。多くの人がツバメのねぐらのマップをもらっていた。

大極殿をバックに